
フォーミュラ・ニッポン第7戦 RACE Report 2009/08/29 オートポリス
土曜日フリー走行

●ロイックがFNマシンでのコースレコードを更新、小暮も2番手で1-2発進。

フォーミュラ・ニッポンも今回のオートポリスを含め残り2戦となり、いよいよシリーズチャンピオンシップも大詰めを迎えた。オートポリスでは2006年以来の開催で九州のファンには3年ぶりのトップフォーミュラのレースがこれから始まる。9:45~10:45でフリー走行が行われ、天候は晴れ時々曇り、季節は秋に入ったが快晴の青空がのぞき日差しが強く、残暑が厳しく感じる。気温と路面温度は 26,4℃/42,3℃。ロイック、小暮とも中古タイヤでコースイン、午後の予選セッションに向け精力的に周回を重ねた。途中停止車両があり赤旗も出されたが、中古タイヤでの最初のアタックでロイックが1'34"097 トップタイムをマーク、小暮も僅差の2番手で続いた。そして、赤旗解除後に今度は小暮が1'33"868 をマーク、ロイックも1'33"932 をマーク。そして、残り6分となったところでニュータイヤでのアタックを開始、ロイックが1'32"649 のトップタイムをたたき出し、小暮も1'32"688 のタイムで2番手。オートポリスFNマシンのコースレコードを更新、前回ラウンドに引き続き2台とも好調をキープしている。NAKAJIMA RACING 1-2 でセッションが終了した。

●チームディレクター:藤井一三

「オートポリスでのFN開催は3年ぶりとなりますが、大きなトラブルもなく順調にきています。車両の件でいろいろな事があり、以前よりもタイム差も接近しているのでライバルに負けないよう頑張ります。」

●31号車ドライバー:ロイック・デュバル タイム:1'32"649 (1番手)

「マシンはまあまあのバランスです。少しリアがナーバスでオーバーステアなので、もうちょっとマシンバランスを煮詰めて予選に臨みます。」

●32号車ドライバー:小暮卓史 タイム:1'32"688 (2番手)

「クルマの調子はとてもいいので、期待が持てます。自分のいい走りをして午後の予選ではポールを狙っていきます。」